

Newsletter for JADR

I. ご挨拶

JADR会長 山田 正
(東北大・教授・生化学)

JADR会員の皆様。1995年より2年間、JADR会長を務めさせていただく山田です。私がJADRの運営に関わって以来の、大橋、佐々木、作田の歴代の大教授・名会長の後を継いで、きわめて見劣りがしないかと不安に思っております。しかし、作田教授は前会長として、黒田、岡田という優秀な両教授がそれぞれ、副会長、事務局長として私を支えてくれることになり、大変心強く思っております。ご支援のほど、よろしく願いいたします。

さて、JADR（国際歯科研究学会日本部会）は申すまでもなく国際学会です。しかし、JADR総会は、日本人の参加者が大部分で国際学会の雰囲気あまり大きく感じられないのは、やむを得ないことです。しかし、何とか国際学会としての雰囲気を盛り上げ、新進の研究者に、国際的な学会の雰囲気に慣れ、その楽しさを味わっていただきたいというのが、私の願いです。このことでは、これまで、各会長が種々努力されてきました。作田会長は、本年のシンガポールでのIADR総会をJADRが共催することを決められ、多くの日本人研究

者がIADR総会に参加することをエンカレッジすることになりました。シンガポール総会には、なんと米国部会を抜き、日本部会からは457題と最大数の演題が応募されました。佐々木会長は、その任期中に懸命な努力をされ、2001年に東京地区（幕張メッセ予定）でIADR総会を開催することを成功させました。6年の間隔で、アジアで国際学会が開かれることになり、日本の歯科研究の国際化もいっそう進むことが期待されます。これら諸先輩の努力をさらに発展させ、JADRを真に国際学会として位置づけるため、私はこの2年間に努力傾けたいと考えています。国際学会で多くの研究者と意見の交換をすることは、世界の歯科医学の中での自らの研究の位置づけを明確にし、研究の方向を見定めるために大変重要だと考えるからです。

さらに、大きな国際化の動きを促進するため、作田前会長は、まさに清水の舞台から飛び降りる心境で、IADRの副会長（2年後には会長）に立候補されました。JADRが真に国際学会となるためには、2番目に大きな部会であるJADRからも会長を出すことが重要な一つのステップです。皆様のご支援があれば、当選も手の届く範囲にあります。いや、最も有力な候補と考えても良さそうです。このような作田前会長の身を挺しての努力は、次代の日本の歯科医学を担う若い歯科医学研究者に国際舞台で活躍してもらうために、大きな意義があることと考えます。

日本の歯科学、歯科医学の発展のため皆様と手を取り合って努力していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

II. 第42回国際歯科学会日本部会 (JADR) 総会について

表記の学会は、1994年12月9・10日の両日大阪の千里ライフサイエンスセンターで行われた。特別講演2題、シンポジウム1題、口頭発表76題、学術展示発表59題があり、504名の参加者を得て盛会裡に学会を終えた。

特別講演の1つは、1993年IADRシカゴ大会でCraniofacial Biology Research Awardの受賞者であるフィンランドヘルシンキ大学歯学部小児歯科・歯科矯正学主任のIrma Thesleff教授による“Molecular Regulation of Tooth Development”であり、他の1つは、毎年演者を交換している韓国部会からご推薦いただいた国立ソウル大学校歯科大学口腔解剖学のJea Seung Ko教授による“Osteoclast Formation In Vivo and In Vitro”であった。

シンポジウムは“Autotransplantation of Tooth and Its Tissue Repair”というタイトルで、司会は大坂大学歯学部生化学 鈴木不二男教授と新潟大学歯学部口腔外科学第1講座 中島民雄教授が務められ、5人のシンポジストからの発表があった。発表は北海道大学歯学部生化学 久保木芳徳教授による“BMP-Induced Bone Formation; Dependence on Geometry of Cell Substrata”, 東京歯科大学病理学 下野正基教授による“Homeostatic and Reparative Functions of Periodontal Ligament”, 大阪大学歯学部口腔治療学 三木靖夫助教授による“The Control Mechanisms of Regenerative Activity of Periodontal Ligament”, デンマークのCopenhagen Municipal Dental Health ServiceのDr. Hans U. Paulsenによる“Tooth Auto-transplantation in Orthodontic Treatment”, および愛知県蟹江市で開業の月星光博博士による“The Follow-up Results of Autogenous Tooth Transplantation in Private Practice”であった。

また、本学会には1993年の3月までJ. Dent. Res.のEditorを2期10年間務められ、IADRの元理事であったUniversity of Manitoba Faculty of DentistryのDr. Colin Dawesは、丁度、来日中という機会を利用して、一般演題を提出して参加された。IADR

のGeneral Sessionで発表した演題の中、25%程度しか論文の形になって来ないので、「General Sessionの演題の75%はrejectされるべきか?」というeditorialを書いて話題となった教授である。

Southeast Asian Division会長のDr. Yeo Jinn-Feiも本学会に出席され、Southeast Asian Divisionの活動について述べると共に、今年6月にSingaporeで開催されるIADR General SessionのLocal Organizing CommitteeのSecretaryとして、Singaporeの紹介や、JADR会員に対する学会参加の呼びかけがあった。

JADRの作田守会長(1993-94)は、IADR本部からの要請で、IADR前会長Dr. Stephen Weiの代わりに現在IADRで検討中の課題であるIADR Strategic Planに関する説明を行った。

Business sessionでは、1987-88年に本学会の会長を務められた常光旭大阪大学名誉教授が推挙されて名誉会員になられた。

本学会は、JADRの作田守会長(1993-94)が総会長を兼任しての運営であった。今後のJADR学会のプログラム作成上注意すべき点について作田会長は次のごとく述べているので注意されたい。IADRのGeneral Sessionに発表するため、日本から提出されたabstractをプログラム委員会でチェックすると、rejectされる数が多く、30%を超えるとIADRのPresident LuncheonおよびCouncilの席上で聞かされた。それは、書き方に示されている様式に則っていないabstractが多いことによるということであった。今回のJADRのabstractをチェックしたが、やはり定められた様式に従っていないものが40%近くあり、書き直していただいた。JADRでは、abstractの提出にあたって、本部提出用の赤枠のものと、JADRの抄録集作成用のグリーン枠のものと2種類のabstractの提出をお願いした。これは、IADR本部での抄録の印刷の仕方と、日本での抄録集を作るときの技術が違うため、2種類の抄録の提出を会員をお願いしたわけであるが、いずれにしても、JADRに提出されたabstractは本部に送られ、J. Dent. Res.に掲載されるわけであるから、本部の求める様式に統一する必要があるということである。Abstractの内容が良くても、様式が本部の要求するものに従っていないからrejectされるということのない様、今後十分留意されたいということであった。

Ⅲ. IADR 次期 Vice president の 候補に前会長作田守教授が選出!

1996-1997年度 Vice president の候補に作田守教授、Anders Linde 教授 (Sweden), David Ferguson 教授 (UK) が選出されました。これは世界各国よりの16名の候補者の内から、Nominating Committee および IADR 本部理事会で、3名に選ばれた結果です。JADR は AADR に次ぐ 2 番目の部会として IADR で大きな位置を占めている今日、IADR 執行部からの作田教授への期待も大きく、先生には大変な御苦労かとは思いますが、今秋予定の選挙において JADR が力強く御支援申し上げ、会長挨拶にありますように名誉ある結果をもたらしたいものと考えております。予定では今夏、お三方の biographical sketches が写真入りで会員の先生方に、投票用紙とともに送付され、投票の締切りは 11 月 1 日となる予定です。過去において JADR 会員の投票率はきわめて低く、今回はぜひ奮って御支援を賜りますようお願い申し上げます次第です。

Ⅳ. 1994-1995 IADR の Committee に占める JADR 会員

IADR reports 16 巻 2 号で既に御承知のことと存じますが、IADR の committee appointments でも JADR 会員の先生方が活躍されておられます。以下、お名前と committee 名を列挙しますと、Tadashi Yamada (1997) - Edward H. Hatton Awards ; Yoshimori Takaesu (1996) - Ethics in Dental Research ; Minoru Nakata (1996) - FDI Liaison ; Takao Maruyama (1996) - IADR/AAADR Joint Exhibits ; Ryo Nakamura (1996) - Membership and Recruitment ; Hiroshi Okada (1997) - Nominating ; Satoshi Sasaki (1995) - Young Investigator Award です。さらに、Mamoru Sakuda - Publication Committee ; J. Dent. Res. は、IADR の official publication ですが、JDR の出版のすべてを AADR が管理運営することに取り決められております。また、

IADR Strategic Plan の重要な局面の遂行を容易にするため 2 つの Task Forces が作られました。

Tadashi Yamada - Task Force on IADR General Session & Meetings, Mamoru Sakuda - Task Force on Structure and Organization です。これ以外にも、記載もれがあると思います。どうか岡田迄御連絡下さい。また、Research Group などの役職におられる方もあろうかと存じます。その他 IADR 関連で御活躍の先生方の御連絡をお待ちしております。

V. 第73回 IADR 総会 (Singapore) と第43回 JADR 総会のご案内

本総会の案内は美しいパンフレットとなり既に先生のお手元に届けられ、既に発表演題の申し込みも終わられ、受理の応諾返事も届いていると存じます。JADR から 457 題の申し込みがあり、IADR 総会で初めて AADR を抜いて演題数がトップに躍り出ました。会員の先生方の研究活動の activities に敬意を表したいと存じます。

第73回 IADR 総会は、JADR, Southeast Asia 部会や Australian/New Zealand 部会等と共催されます。よって、本年度の JADR 総会 (Business Session) は Singapore で、IADR の総会の期間中の 6 月 30 日 (金) 13:00~14:15 (会場は Westin ホテルの Sentosa ルームです) に行われますので、会員多数の御参加をお願いします。例年、JADR 総会は 12 月に行われ、当該年度の決算報告、次年度の予算等の御審議をしていただいております。しかし、上記しましたように、本年度の JADR 総会は Singapore で行われ、しかも時期が 6 月でございますので、事務手続きが不可能です。本年度の決算報告、次年度の予算案という重大案件の処理につきましては別途考慮せざるを得なくなりましたことを御理解下さい。

また、Singapore への旅行につき、JTB を JADR の公式指定の旅行業者としております。御参考までに連絡先は、次の通りです。

JTB 丸の内本店 海外旅行営業部

〒100 東京都千代田区丸の内 1-6-4

担当者: 鈴木 広行

TEL: 03-3284-7559

FAX: 03-3284-7196

VI. IADR の Satellite Symposium, “Dentin/Pulp Complex” のご案内

国際歯科研究学会日本部会 (JADR) が, IADR, 日本歯科医学会および基礎歯科医学会と共に後援する “The International Conference on Dentin/Pulp Complex 1995, 象牙質/歯髄複合体に関する国際会議 1995” が, 7月3・4日の両日, 千葉の幕張プリンスホテルで開催されます。主題は歯髄の再生と象牙質形成: 歯髄神経の機能: 歯髄の病態生理: 象牙質歯髄複合体と接着性レジン の4つです。本シンポジウムは, Singapore で開催される第73回 IADR General Session (6月28日-7月1日) につづいて, IADR の Satellite Symposium として, 神奈川歯科大学高橋和人教授を組織委員長, 東京歯科大学下野正基教授をプログラム委員長として企画開催されるものです。多数の会員の皆様方のご参加を期待しております。尚, 詳細はプログラム委員長の下野教授 (東歯大・病理 FAX 043-270-3784) にお問い合わせ下さい。

VII. 第1回日本歯科理工学会 国際シンポジウムのご案内

本国際シンポジウムは, Frontiers in Dental Materials and Dentin Bonding をテーマとして, 10月28日 (土) - 29日 (月), 京都市国際交流会館で日本歯科理工学会が主催し, 日本補綴歯科学会, 日本歯科保存学会および日本接着歯学会が協賛して開かれるものです。テーマにもありますように, 歯科材料と歯髄の関係の的を絞り, とりわけ象牙質への接着と歯髄の関係を論点にすえたいとのことです。詳細は, 本シンポジウム Local Arrangement Chair の谷嘉明教授 (京大・生体医療工学研究センター, President-elect, IADR-Dental Materials Group, FAX: 075-751-4144) にお問い合わせ下さい。

VIII. 2001年にIADR 総会が東京で 開催

口腔保健科学の進歩・発展の目醒ましい我が国で上記学会が開催される運びになっていることはご同慶の至りです。ここに経緯と現状をお知らせ致します。

1992年7月スコットランドのグラスゴーで開催された第70回 IADR 総会時の理事会および評議会で東京医科歯科大学の佐々木哲 JADR 会長 (1991-92) から提出された2001年の第79回 IADR General Session の日本誘致が満場一致で承認されました。我が国では1980年に第58回 IADR General Session が大阪で開催されましたので, 第2回目の開催となります。

日程・場所などは次の通りです。

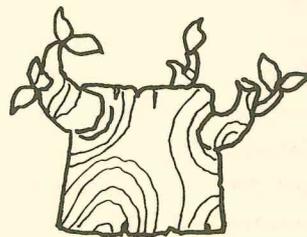
日 程: 2001年5月下旬-6月上旬

場 所: 千葉市美浜区

幕張メッセ, 幕張プリンスホテル

関連諸団体への働きかけは平成6年11月18日に文部省, 厚生省, 日本歯科医学会, 日本歯科医師会に対して作田守会長 (1993-94) が開催趣意書を提出し, 協力を依頼しました。

本学会開催の準備を進めるにあたり, 組織委員会, 実行委員会をこれから構成する必要がある, 2001年へ向け鋭意努力が重ねられて参ります。会員皆様のご支援・ご協力をお願い致します。



IX. IADR Headquarters Fund Campaign について

IADR 本部が各会員に配布しております「IADR Reports」などでご承知と思いますが、IADR では学会創立75周年を記念して学会所有の本部ビルを購入するために、IADR と AADR が初めての募金活動を展開することになりました。この運動は、Dr. John W. Hein が IADR Headquarters Fund Drive の Chairman となり、Executive Director の Dr. John J. Clarkson がその実務を遂行しております。

本部ビルの購入金額は約130万ドルですが、このうち75万ドル程度を IADR の各国の部会、研究グループ、企業等に醸金していただき、あとは IADR の reserve fund により全額をまかなうという予定のものです。募金活動の期間は一応3年または4年を本部では考えておりますが、資金の立替払いで1995年にビルを購入し、IADR 本部を新たな場所で発足させたい意向です。実際、1995年4月1日から本部ビルは下記のごとく新しい住所に移り、業務が開始されました。

IADR 本部での募金運動の結果、1995年2月16日現在で34万ドル余りが集まって来ております。本部ビルを購入すれば、年間の運営資金を約4万ドル軽減できますし、事務局の場所が安定するため、図書館の開設、世界中の会員に便利な通信機器の設営等、日本部会にとっても今後の活動に便利な点が考えられます。

JADR としては、1994年4月に開催された理事会で、上記の募金活動に協力することが決定されました。直接本部に送金された場合はそれで結構なのですが、日本部会会員の寄付に対する便宜を図るため、日本部会事務局で醸金をとりまとめて本部に送金することとなり、現在募金を行っております。JADR 事務局が今年1月に東京歯科大学から大阪大学歯学部（学会センター関西取り扱い）に移りました時点で約110万円の醸金をいただきました。ご報告と共にご協力に対し厚く御礼申し上げます。この募金は1995年も続けられますが、今年の3月末までに醸金をお寄せいただいた分については、お名前、IADR

の ID 番号、ご寄付いただいた金額などと共に、取り敢えず本部に渡すことにしております。

今年4月以降のご寄付につきましては、来年の IADR の学会の機会に本部に渡すことに致します。未だご寄付いただいている会員はよろしくご協力の程お願い致します。

X. IADR 本部が移転

IADR 本部ビルが以下の住所に移り、4月1日より活動を再開しました。

新 IADR 本部連絡先 (1995年4月1日より)

1619 Duke Street

Alexandria, VA 22314-3406

USA

TEL : (703) 548-0066

FAX : (703) 548-1883

XI. IADR 創立75周年記念事業の一環としての video 制作

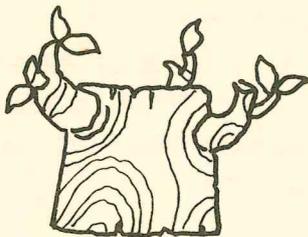
これ迄の IADR 歴史を video としてまとめるため資料集めをしている。Division については Divisional activities を収録したい。については昨年度の総会関連の写真の送付を依頼したいので、第42回 JADR 総会の特別講演、シンポジウム、懇親会などの写真を本部に送付してほしいという申し出があった。

また、IADR Report にも JADR の最近の活動を報告したいとの申し出があったので、第42回 JADR 総会の写真と年次活動報告（高江洲前事務局長が作成、IADR 本部に報告された）を抜粋して送付した。

XII. Hatton 賞, Scott 賞について (次年度 Hatton 賞の応募!)

Hatton 賞は、第10代の IADR 会長であった Edward Hatton 博士の功績をたたえて設けられた若手研究者を顕彰するための賞です。プレドクトラル部門とポストドクトラル部門の2部門があります。JADR から候補者を推薦し、IADR 総会で審査され受賞者が決定されます。来年は IADR 総会が3月の予定ですので、昨年の例になりますと、9月1日までに候補者を通知することとなっております。そこで、来年度の Hatton 賞に応募を御希望の先生方は、IADR 総会の演題応募の形式で、生年月日、所属、応募部門を明記の上、事務局長宛に7月31日(必着)までに資料をお送り下さい。

Scott 賞は歯学部あるいは歯科大学に在学中の学生で歯学研究者の指導のもとに、歯学あるいは歯科医学に関する研究を遂行している者に対して、その研究を完成させるために与えられる賞です。これは毎年アルファベット順で各国に割り振られ、本年は JADR から推挙できる順番となりました。日本部会で推薦した候補者を IADR 本部理事会で選考した結果、Sachiko Takikita さん(大阪大学)が Singapore 総会において受賞者として表彰されることに決まりました。



XIII. 学会事務局が学会センター 関西に移管

これ迄は事務局長および会計担当理事の教室を事務局として、JADR の事務が処理されてまいりましたが、1995年度より学会センター関西において事務処理を行うことになりました。永年、御苦勞を賜りましたこれ迄の事務局長、会計担当理事の先生方に厚くお礼申し上げます。

事務局が移転しますので、JADR および IADR への入会、会費の納入等の諸事務は学会センター関西が担当します。詳しくは同封の資料を御参照下さい。

尚、所在地は下記の通りです。

〒565 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西
(財団法人 日本学会事務センター 大阪事務所)
TEL 06-873-2301
FAX 06-873-2300
担当 大戸 道子

XIV. IADR の会員継続手続きに ついて

IADR 本部会費が未納ですと、1年後には退会の手続きが自動的にとられますので、会員の継続を御希望される場合は、本部から送付される会費納入通知(例年秋に送付)はお忘れなく各人で御回答されますようお願い申し上げます。

XV. 1995年度第1回理事会報告

2月27日(月)、本年度の第1回理事会が今回より場所を大阪千里ライフサイエンスセンターに移して新執行部のもとで行われた。まず、初めにお互いの自己紹介で始まり、旧知の間柄の先生方も多く、和気あいあいの内に3時間の予定時間をフルに活用して、報告、協議が活発に行われた。報告、協議内容のうち、Newsletter誌上に別項目を設けて報告している事項以外についてここで報告したい。

報告事項として、

- 1) 第42回 JADR 学術大会(学術大会会長 作田守 阪大教授)の終了報告と会計報告、また、Abstract form は、印刷様式が本部と本会で異なるため IADR 用の赤色と JADR 用の緑色の2種類が必要との指示があった。
- 2) IADR 韓国部会学術大会に高江洲教授が JADR を代表して招かれ参加し、招待講演を行った。文面で頂戴した帰朝報告によると、次期会長は Prof. Cheol-We Kim (金哲偉教授)(ソウル国立大学・歯科生体材料学講座)である。
- 3) 日本歯科医学会は専門分科会に助成している。JADR は、日本歯科医学会の専門分科会承認基準に合わない(雑誌(機関誌)の年2回以上の定期刊行が承認の基準の一つとなっているため)にもかかわらず、その他関係諸団体補助として補助金を頂戴している。そのこともあり、毎年 JADR 会長は学会活動報告などとともに支援の依頼を日本歯科医学会長に文書でされている。
- 4) IADR Executive Director's Annual Report 1994, および IADR の Organization と Structure に関する Task Force 委員会での討議の内容につき作田前会長より中間報告があった。

協議事項として、

- 1) 1995年度理事会開催の年次予定を決定した。
- 2) IADR Singapore での Council Meeting への出席者(山田会長、黒田副会長、岡田事務局長とオブザーバーとして作田前会長)を決定した。
- 3) JADR 会則、内規、申し合わせなどを整備することとした。
- 4) 1996年 JADR 総会は山田会長を総会長として裏磐梯で行うことを検討中である。会期は11月中旬か下旬を予定。
- 5) 2001年 IADR 東京大会の開催準備について、佐々木元会長よりこれまでの経緯の報告があり、準備委員会を正式に発足させる(次回の理事会で検討する理事会)こととした。

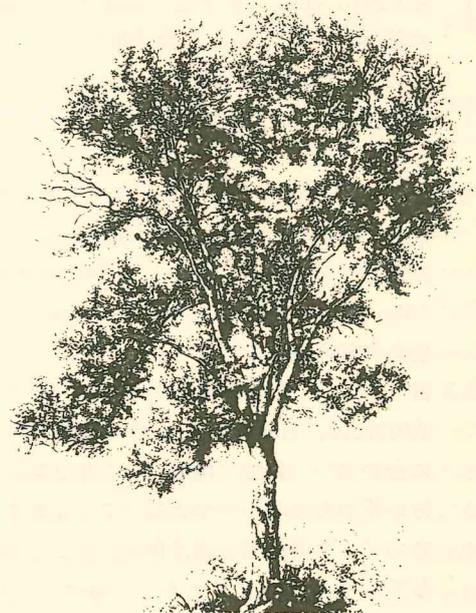
XVI. JADR 理事会役員名簿

(1995-1996年)

会 長	山田 正 (東北大学歯学部 口腔生化学講座)
副会長	黒田 敬之 (東京医科歯科大学歯学部 歯科矯正学第二講座)
前会長	作田 守 (大阪大学歯学部 歯科矯正学講座)
事務局長	岡田 宏 (大阪大学歯学部 口腔治療学講座)
会計理事	伊集院直邦 (大阪大学歯学部 口腔病理学講座)
理 事	川添 堯彬 (大阪歯科大学 歯科補綴学第二講座)
理 事	中村 亮 (徳島大学歯学部 予防歯科学講座)
理 事	村山 洋二 (岡山大学歯学部 歯科保存学第二講座)
理 事	森脇 豊 (朝日大学歯学部 歯科理工学講座)
理 事	斉藤 毅 (日本大学歯学部 歯科保存学第二講座)
理 事	奥田 克爾 (東京歯科大学 微生物学講座)
理 事	須田 英明 (東京医科歯科大学歯学部 歯科保存学第三講座)
事務局長補佐	村上 伸也 (大阪大学歯学部 口腔治療学講座)

CONTENTS

- I. ご挨拶
1
- II. 第42回国際歯科学会日本部会(JADR)総会について
2
- III. IADR次期 Vice presidentの候補に
前会長作田守教授が選出!
3
- IV. 1994-1995 IADRのCommitteeに占める
JADR会員
3
- V. 第73回IADR総会(Singapore)と
第43回JADR総会のご案内
3
- VI. IADRのSatellite Symposium, "Dentin/Pulp
Complex"のご案内
4
- VII. 第1回日本歯科理工学会 国際シンポジウムのご案内
4
- VIII. 2001年にIADR総会が東京で開催
4
- IX. IADR Headquarters Fund Campaignについて
5
- X. IADR本部が移転
5
- XI. IADR創立75周年記念事業の一環としての
video制作
5
- XII. Hatton賞, Scott賞について
6
- XIII. 学会事務局が学会センター関西に移管
6
- XIV. IADRの会員継続手続きについて
6
- XV. 1995年度第1回理事会報告
7
- XVI. JADR理事会役員名簿(1995~1996年)
7
- 編集後記
8



●編集後記●

本年より事務局長に選出していただき、通知を頂戴した時点で「これは大変!」と一旦迷いましたが、生来の大ざっぱさ由もあって、時がたつと忘れてしまいあまり気にも止めておりませんでした。しかし、初めての理事会も終わり、仕事内容の多様さに驚き、「今後、はたして立派に対処できるのだろうか?」と、大変大変不安になってきております。この歳になりますと、少しでも皆様の役に立つことをしなければならぬと、自分にムチ打ちつつ誠心誠意努力してまいりたいと考えています。どうか皆様方の御支援を切にお願い申し上げる次第です。会長のご挨拶にもありますように、JADRが国際舞台で更なる飛躍を遂げるためにも若い先生方の意欲的な活動が此からも大いに期待されます。これまでの先達たちが築いて下さいました素晴らしいJADRを更に発展させるためにも、若い活力が息吹くJADRであってこそと考えております。任期一杯、微力を尽くしたいと考えておりますので、どうか色々と言も含めてご遠慮なくご意見を賜りますようお願い申し上げます(岡田 宏)。

発行 国際歯科研究学会日本部会(JADR)

連絡先: 〒565 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階 学会センター関西内

JADR事務局長 岡田 宏(大阪大学歯学部口腔治療学講座)

連絡先: 〒565 吹田市山田丘1-8 FAX 06-875-4359

1995年4月18日発行